

# 仙台市野球協会 審判検定試験過去出題問題集

1  
X

<捕塁義務の有無>  
打球を打者が打たなかった場合 次の塁へ進塁を試みていない走者は必ず次の投球までに元の塁に触れ直さなければならない。

ボールデッドにはなっていない

ボールデッドになったときは (ファウルの後など) 全走者が塁に触れ直したのを確認してから「プレイ」を叫ぶ

2  
O

<ファウルチップの定義>  
ファウルチップはファウルボールではない。

空振りと同じ扱い

3  
X

<チップがマスクにあたった後の捕球>

2ストライクから打者のチップした打球が最初に捕手のマスクに当り跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球すれば打者はアウトである。

この時点で「ファウルボール」確定

4  
O

<チップがミットにあたった後の捕球>

打者がチップした打球が最初に捕手のミットに当り捕球できずに跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球すればファウルチップである。

打者が打った打球が鋭く直接捕手のミットに手へ飛び

①この時捕球 ②手やミット以外に当たりに地面に落ちる前に捕球しても

5  
X

ファウルチップ時の走者の扱い

打者がチップした打球を捕手が捕球した場合 盗塁を試みていた走者は元の塁に戻らなければならない。

空振りと同じ扱い (インプレイ)

6  
X

<スリーフットラインとフェア・ファウル>

本塁・一塁間のファウルラインとスリーフットラインとで囲まれたゾーンに打球が止まった場合はフェアである。

ファウルゾーンに設定

リタッチしてはいない → アピールプレイ

7  
X

<フォースプレイの定義>

無死走者一塁でライトフライ。飛び出していた一塁走者をアウトにするためライトが一塁に送球したプレイはフォースプレイである。

打者が「打者走者」になることで前の走者が占有塁を失うことで走者はアウト

8  
X

<アピールプレイをどの塁で行うか>

1死走者一・三塁でスクイズ。投手への小飛球となったが走者は2人ともスタートを切っており、投手がフライを捕球した時には三塁走者は既に本塁を駆け抜けていた。投手は一塁へ送球してダブルプレーでチェンジとなり攻守交替した。この場合、タッチアップしていない三塁走者のホームインは無効なので点は入らない。

リタッチ義務 果ては

空振り反則打球か

点入る ※無効にするには 3塁への送球 アピールは必要

9  
X

<スクイズ時の反則打球>

1死走者三塁でスクイズ。三塁走者はホームインしたが、打者の足が完全にバッターボックスから出ていたことが判明。この場合、三塁走者はアウトとなる。

「打球」ではなく → 反則打球にはならない

フェア・ファウル問わず反則打球は通用される (自打球 → 2013 ~ 反則打球通用)

バントはフェア・ファウル問わず (ファウルチップも)

10  
X

<スクイズ時の反則打球>

1死走者三塁でスクイズ。三塁走者はホームインしたが、打者の足が完全にバッターボックスから出ていたことが判明。この場合、三塁走者はアウトとなる。

(日本) 2006 ~ 「打者アウト」を統一

I-P

2005年まで 0 or 1アウト → 3塁走者アウト  
2アウト → 打者アウト (検定規則による)

11  
O

ポーク

<塁の占有権>

1死二 三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三 本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に二塁走者が三塁ベース上に来たが、この走者は三塁の占有権を持っていないため、タッチをされればアウトになる。

(3塁走者が3塁に戻ってきたのに残ってはいけない)

前の走者に占有権 (先走者による)

12  
X

ポーク

<塁の占有権と守備妨害>

1死二 三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三 本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に二塁走者が三塁ベース上に来たが、三 本間の走者は守備妨害でアウトになった。この時、三塁ベース上の走者に正規の占有権が生じるため、このままの状態ですべて試合再開となる。

2塁ランナー

3塁ランナー

他の走者は、妨害が起きた瞬間に占有して一塁に戻ることができる。2塁ランナーが 妨害発生時に占有して一塁は「2塁」

13  
X

<一塁への牽制球>

左投手に限り、一塁へプレートを外さずに牽制球が投げられる。

左投手も可

14  
X

<一塁への牽制偽投>

左投手に限り、一塁へプレートを外さない牽制で偽投することが許されている。

左投手も右投手も可

※左投手 (塁偽投 → 3塁ランナー)

↑この時点でポーク

15  
O

<三塁への牽制球>

右投手・左投手ともに、三塁へプレートを外さずに牽制球が投げられる。

(ポークや暴投の危険があるのであまり行われへ)

16  
O

<牽制の可否>

投手の自由な足(軸足でない方)が投手板の後縁を越えたら、二塁以外への牽制球は投げられない。

※プレートも踏んだまま偽投し、そのまゝ他の塁へけん制を投げたり偽投したりするとポークに該当する。(偽投したあとにはプレートも外すのがルール)

17  
X

ポーク

<走者のいない塁への牽制球>

投手がセットポジションで静止している時に二塁走者が三塁に向かってスタートを切った。投手はプレートを外さず、三塁へ送球したが、走者がいない塁へプレートを外さずに送球したのでポークである。

本来はポークに該当

しかしプレイの必要が認められる。(野球規則8.05)

18  
X

ポーク

<アピールプレイをどの塁で行うか>

1死走者二 三塁で左中間に鋭い打球。三塁走者は本塁を駆け抜け 二塁走者も三塁を回ったがセンターがこれを好捕した。この場合、二塁に送球してダブルプレーでチェンジとなれば、三塁走者のホームインは認められない。

このとき、三塁手は塁に立つから動いてはならない。走者がアウトにされた場合プレイは二塁に該当し、ポークに該当。

No.8と同様 (3塁へのアピールは必要)

19  
X

<正規の捕球>

フライを捕球する際、最初に打球に触れたのがグラブか手の場合は、その後お手玉をしたり身体他の部分に触れても地面に落ちる前に捕球すればアウトであるが、最初に打球に触れたのがグラブか手以外の場合は、その後地面に落ちる前に捕球しても正規の捕球とは見なされず アウトにならない。

地面につく前に捕球すればアウト (最初どこに当たったかは関係なし)

20  
X

<リタッチのタイミング>

1死走者三塁で右中間へのフライ。ライトが追いついたが打球をはじき、タッチアップの態勢にあった三塁走者は捕球したと思いスタートした。その後センターがライトがはじいた打球を地面に落ちる前に捕球した。三塁走者の離塁が早過ぎるため、アピールされればアウトになる。

この時点でスタートエコーで良い (野手も取らなくて)

21  
O

<サインを見る体勢>

投手がサインを見るときは、必ずプレートに触れた状態で見なければならない。

野球規則8.01で規定

プレートも踏まずに見てスタートを打者へ入れる

捕球、ポーク、プロテクターなどは、走者がアウトにされた場合プレイは二塁に該当し、ポークに該当。ただし、走者が打者、全走者は二塁の塁に該当し、ポークに該当。2-P 0 発生した時点で正規の捕球とは異なる。二塁手は二塁に立つから動いてはならない。走者がアウトにされた場合プレイは二塁に該当し、ポークに該当。